

2022.1.14

松江市小中一貫教育だより NO.3

小中一貫教育推進係 文責：安部

義務教育学校って、どんなところ？ part 1

市立では八束学園に続いて2校目となる玉湯学園が、今年度4月に開校しました。



小学校と中学校の区切りを無くし、一つの学び舎で9年間学習する義務教育学校。実際、どのようなものであるか具体的にイメージしにくいと思いますので、ここで少し紹介したいと思います。

「義務教育学校」は、小学校、中学校に次ぐ、**まったく新たな学校種**です。単純に「小学校と中学校が一つになった」わけではなく、平成27年6月学校教育法等の一部を改正する法律が成立したことにより、松江市でも「『義務教育学校』

に移行し9年間を見通した教育課程を編成・実施することで、子どもたちにとって、これからの時代に必要となる資質・能力の育成をめざした学びの可能性を大きく広げることができる」と考え、創設しました。

	義務教育学校	小学校・中学校
修業年限	9年	小学校6年、中学校3年
校長	1人	各校に1人
免許状	原則として小・中免許を併有 (当面は併有していなくても勤務可)	各学校に対応した免許の保有

※「義務教育学校」においては、「教育課程特例の活用」が認められ、文部科学省への申請等の手続きを経ることなく、「小中一貫教育の教育課程を編成するために特に必要な教科等の設定」「小学校段階・中学校段階を越えた指導内容の入替えや移行」「小学校段階・中学校段階における学年間の指導内容の前倒しや後送り」など教育課程特例の実施が可能となっています。

実際に玉湯学園で行われている学校運営の軸を見てみると、

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学年段階の区切り	前期ブロック（４）				中期ブロック（３）			後期ブロック（２）	
授業時間	４５分授業				５０分授業				
各教科	学級担任制				一部教科担任制		教科担任制	教科担任制	
外国語			外国語活動		外国語（教科担任制）		外国語（教科担任制）		
儀式	入学式			前期ブロッ ク修了式			進級式		卒業式
部活動						６年２学期から練習生として参加			

となっています。

この表からもわかりますように、学年段階の区切りは、松江市小中一貫教育の基本方針である「4・3・2」の形をとり、「4年生」「7年生」「9年生」それぞれがブロックの最高学年としてリーダーシップをとりながら各ブロックを引っ張っていています。

松江市教育委員会としましては義務教育学校の設置により、

- 小学校から中学校への円滑な移行を促し、中1ギャップの緩和・解消への効果
- 系統性・連続性を意識した小中一貫教育を行い、9年間を見通した基本的・汎用的能力の育成
- 教員の小中間の乗り入れ授業や5、6年生における教科担任制の導入など協働的指導体制の構築
- 小学校籍教員の授業持ち時間の軽減
- 部活動顧問の柔軟な配置
- 生徒指導面、特別支援教育等における個に応じたきめ細やかで丁寧な指導
- 1年生から9年生までの幅広い学年の児童生徒と一緒に学校生活を送ることで、小学校や中学校ではできない様々な特色ある教育活動（異学年交流活動等）が可能となり、こうした活動を通して上級生、下級生互いの精神面や社会性、思いやりの心や規範意識、上級生に対するあこがれの気持ち等を育てる

などが期待できると考えています。

今後、市内2つの義務教育学校の実態の把握及び検証を進め、義務教育学校のより良い形をさらに模索していきたいと考えています。

義務教育学校玉湯学園 前田校長先生にインタビュー!!

Q. 「義務教育学校」になって、子どもたちの声はどのようなものが聞かれますか？

- A. ・「小さい子に対する接し方や最上級生としての在り方などを考える良い機会になったり、行事に迫力が当たりして良かった。」などという声を実際に聞きます。
- ・上の学年と下の学年と一緒に活動しているのを見ると、とっても微笑ましく、後期ブロックの子どもたちの顔つきが柔らかくなったように感じます。ここ最近では、8、9年生がいいリーダーシップをとって縦割り掃除班をまとめるなど掃除が上手になりました。

Q. 「義務教育学校」になって、家庭や地域から何か聞きますか？

- A. ・学校評価等からは概ね好意的な意見をいただいています。また、大谷小の保護者だった方からは「友だちが増えていいです。」と聞きます。
- ・反面、一部、義務教育学校の必要性やメリットが見えないことや、今までの小学校（6年生をゴールとする考え）とは違う生活について不満の声もあります。

Q. 今後、もっと考えていく必要があることはどのようなことですか？

- A. ・保護者、地域の全ての方が義務教育学校と従来の小学校や中学校との違いを理解されるには、もう少し時間がかかると思います。今年度は、コロナ禍においてしっかりと説明する機会を設けられなかったり、行事も当初の計画を変更せざるを得なかったりと手探り状態であったことで、十分に4・3・2制を生かした教育活動が行えたとは言えない面がありました。時間をかけて従来の6・3制から脱却した考え方をもってもらえるように、情報発信をしていく必要があると思います。そのためにも、まずは教職員一人一人、学級、学年、ブロックという単位で、義務教育学校玉湯学園を語れるようにしなければならぬと感じます。

Q. 玉湯学園の売りはどのようなことでしょうか？

- A. 木造校舎である新校舎はもちろんですが、義務教育学校としての利点を生かした教育活動です。そして、地域との関わりを生かした教育活動を展開することで、地域貢献の場、地域とともにある学校づくりを進めていきやすいことです。今後、1～9年生までの一貫した総合的な学習も積極的に展開していきます。

Q. 最後に一言お願いします。

- A. 働き方改革の視点では、全く逆行した9カ月でしたが、教職員は本当に一所懸命様々なことに取り組んでくれました。とても感謝しています。来年度は今年度の教育活動をふりかえり、改善することで少しゆとりが出てくるのではないかと想像しています。誰もが経験できる学校ではないので、創造する楽しさを味わってほしいと思います。

前田校長先生、お忙しい中お答えいただきましてありがとうございました。次号は、「義務教育学校って、どんなところ？ part2 ～義務教育学校八束学園の紹介～」です！